

第2回 里庄町上下水道事業運営審議会 意見・質疑事項

(1) 水道の料金改定について

No		発言要旨	事務局回答
(1)-1	意見	値上げはやむを得ない。災害時でも事業を継続できなくてはならず、資金の積立をしなくてはならない。また、人口減少も避けられず、ケース(2)が妥当と考える。	
(1)-2	意見	他市町比較では、今回の料金改定で高い方へスライドするが、いずれ他市町も値上げするだろう。水道料金を毎年段階的に上げるよりも5年毎に見直せば良い。	
(1)-3	意見	企業としてはケース(3)と言いたいが、水道は必要不可欠なもので、各世帯の水道料金が値上げとなる中、企業も相応分の負担はやむを得ない。28年ぶりの改定であり、町民の負担が最も少ないケース(2)がよいと考えられる。	
(1)-4	意見	ケース(3)を選びたいところだが、企業として住民の方とともに歩む姿勢に変わらない。ケース(2)と考えている。毎年上げるよりも5年毎の見直しを望む。	
(1)-5	質疑	古い家は水道メーター口径13mmが多かったが、新築で口径20mmが増えると、基礎料金が増えて収入増になるのではないか。	基礎料金は変わるが、料金収入は大きく変わらない。
(1)-6	質疑	国が水道事業に介入していくと聞いたが、水道料金について周辺の市町村と同じ金額になることは考えられるのか。	国の動向に注視し、今後の情勢を踏まえて水道料金を5年毎に検討する考えである。
		値上げは理解しているが、水道事業の中で大きな支出や必要な費用とは何か。	有収率を向上させるため、老朽化した管路の更新を耐震管にて進めることに費用がかかる。

(2) 水道メーター・検針について

No		発言要旨	事務局回答
(2)-1	質疑	水道メーター口径、13、20、25mmは一般家庭の理解だが、件数はどれくらいを占めるのか。	全体で約4,400件の内、13mmは約2,000件、20mmは約2,200件、25mmは約60件である。
		2か月毎の検針の労力が大きいと考えられ、経費削減のため、半年毎の検針で精算する等の工夫をされてはどうか。	個人負担となる宅内漏水の把握を考えたら、2か月毎が最適である。

(3) 水道管の老朽化・漏水について

No		発言要旨	事務局回答
(3)-1	質疑	漏水は年間何件あるのか。	宅内漏水は2か月で10件程度である。
(3)-2	質疑	消火栓も劣化するのか。	パッキンなどが劣化する。

(4) 総括及び今後の審議会について

- <事務局提案/料金体系ケース3案>
- ケース(1)：現行料金体系を維持した料金体系
 - ケース(2)：現行から25mmの区画別料金を廃止した料金体系
 - ケース(3)：水道料金算定要領に基づいて算出した料金体系

- <審議会としてのまとめ>
- ・ケース(2)が妥当との意見が多く、このケースを選択する。今後の見直しの際は、日本水道協会「水道料金算定要領」に沿った検討をする。
 - ・料金改定率は、老朽管の更新費用、災害等非常時の水道事業継続に最低限必要な資金残高2億円を確保するために、今回は15%以上が必要であると試算しており、この改定率を選択する。

次回、第3回の審議会では、これまでの審議結果を踏まえた答申案を提出し、審議を行う。